

みんなの会の第6回総会を11月3日(祝・火)午後1時から今池ガスビル2階F会議室で行います。総会では①2014年度活動報告②2014年度会計報告(収支決算)③「木曾川流域水源の里基金」の現状報告と運用④2015年度活動計画⑤2015年度予算についてなどを話し合います。会員の皆さん、ご出席下さい。

総会に続いて午後2時半から上下流・交流連携の集いを行います。ゲストとして、木曾町の小池靴店・唐沢尚之さんを招いて、7月に木曾町で行われた星野富弘さんの詩画展について話してもらいます。11日間で3,700人を超える入場者があり、私たちも7月に詩画展に出かけました。その準備や開催を通して、感じたことや見えてきたこと、いろいろな出会いや交流などについて、唐沢さんに語ってもらい、今後の上下流交流に活かしていきたいと思います。

みんなの会総会&上下流交流の集い

日時：2015年11月3日(祝・火) 13時~16時30分

場所：今池ガスビル2階F会議室 (地下鉄今池駅10番出口すぐ)

☆みんなの会総会：13時30分~14時30分☆

☆上下流交流の集い：14時30分~16時30分☆☆

~星野富弘さんの詩画展に3,700人が来場~

力をあわせた取り組みの成果について

☆講演：唐沢 尚之さん(長野県木曾町・小池靴店)

☆連帯あいさつ

☆参加費：500円(資料代含む)

☆主催：水源の里を守ろう 木曾川流域みんなの会

住民による内発的な地域づくりが真の「地方創生」(地域創生)

各自治体で人口ビジョンと総合戦略の策定作業が進んでいます。

2014年(平成26年)11月21日、地方創生の理念などを定めた「まち・ひと・しごと創生法」と、活性化に取り組む地方自治体を国が一体的に支援する「地域再生法の一部を改正する法律」の地方創生関連法が可決・成立。12月27日に国の「まち・ひと・しごと創生

長期ビジョン及び総合戦略」が閣議決定されました。この策定の中で、木曾川上流域と下流域の交流、都市と農山村の関係、流域経済圏・文化圏などをめぐっての動きは、あるのでしょうか。

2013年11月、2014年5月に出された「増田レポート」は、「消滅自治体」「消滅する市町村」と特定の自治体の名前を上げたことに

よって、大きな衝撃を社会に与えています。
「ストップ少子化」「地方再生戦略」として始まった増田レポートは「自治体消滅論」「地方消滅論」として、機能してきています。

「過去の人口増加時代には森林を切り開き食料を増産したが、今後の人口減少時代には、正反対の政策が必要となる。中山間地を手入れ不要な自然林に戻し、大規模農業を目指すことである。…人口減少社会で、大都市へ人口が集中することは、都市の規模の経済を活用する合理的な行動だ。これを地方の過疎化をもたらす原因と見なして抑制すれば、都市も農村も共倒れになる」(2014年9月27日付、日本経済新聞コラム)と述べています。

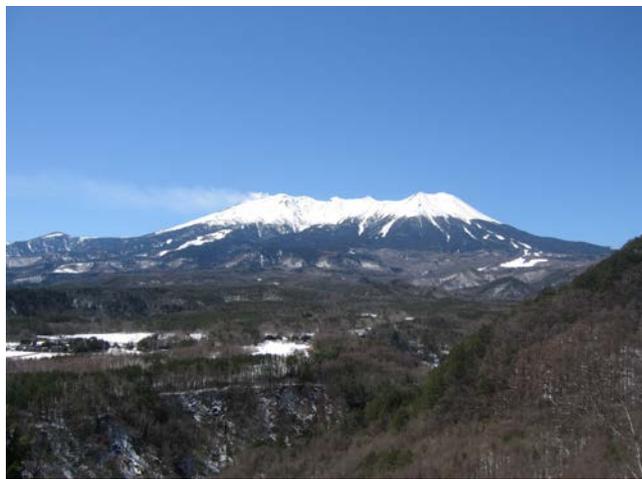
これらの動向は、私たちの目指している上流域と下流域の公平・公正な関係、「小さな経済圏」「密度の濃い関係づくり」、共生と循環の新しい流域圏の創出…と全く逆の動きです。近未来をめぐる大きな転換点に今、私

たちは生きています。

「人が生きていくのに必要なのは、お金だろうか。それとも水と食料と燃料だろうか。…マネーに依存しないサブシステム(里山資本主義)を再構築しよう」と『里山資本主義』の著者・藻谷浩介氏は呼びかけています。

“これまでの計画は、総じて国からの指示で自治体が内輪でつくるか、自治体がコンサルに外注してつくられてきました。…地域の課題をとらえ、その処方箋を書かなければならないときに役所が国や政府ばかり向いて、あるいは地元のことを知らない…コンサルに丸なげ…地域の住民にとってよい計画になるはずがない…。やはり時間がかかっても、草の根レベルで住民は何を求めているのか、その解決のためにどのような政策を実施するのかを考えなければならない…”(真の「地方創生」とは何か『世界』2015年5月号、片山義博、小田切徳美)

木曾川流域集会、木曾川流域図、水源の里基金、大豆作り・味噌造り



開田高原から見た御嶽山。御嶽山は“水の山”、1200の滝があり、流れ出た水は木曾川と飛騨川に注がれる

＝2015年3月27日

みんなの会のスタートは、2008年9月に行った「第1回水源の里を守ろう 木曾川流域集会」です。「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉にして、木曾川、飛騨川、愛知用水の上下流交流を行ってきました。木曾川流域集会是6回を重ねまし

た。“川は命のつながり”として源流から知多半島の先端や伊勢湾までの『木曾川流域図』を作成しました。木曾川流域水源の里基金を設立して、上流域の生産物を下流域の人びとが名古屋生活クラブやアイチョイスなどを通じて購入。その購入価格の2%を基金として積み上げてきました。基金の運用として、木曾青峰高校インテリア科の3年生が間伐材でベンチや木製玩具を制作。ベンチは、東山動植物園、名古屋城天守閣、木曾福島駅バス待合室、木製玩具は名古屋市科学館や名古屋市子ども・子育て支援センターに寄贈してきました。

木曾川源流の里・長野県木祖村に約180坪(6畝)の畑を借りて、5年間大豆作り。その大豆は木曾町の小池糶店で2年醸造の「玉造」「突き込み」の2種類の味噌になりました。

この味噌の名前は『みなもと』です。

また、毎年開催される「なごや水フェスタ」

(6月上旬)、今池祭り(9月下旬)、インターネットフォーラム(11月)などを上流域

の人びとと協力しながら取り組んできました。

継続的に取り組みながら新しい課題へ

第5回木曾川流域集会(2013年3月20日)で、四方八洲男さん(全国水源の里連絡協議会顧問・前綾部市長)は水源の里を振興する条件(内発的発展力)として、コミュニティ、下流の都市との交流、小さな経済、リーダーの存在、活動の継続の5つを提起。2013年10月16日木曾町で行われた木曾三川流域自治体サミットでは、「木曾からの提言」5点が出されました。また、昨年『源流白書～源流の危機は国土の危機～』(全国源流の郷協議会)で「資源、資本、人が循環する小さな経済圏」「密度の濃い関係づくり、新しい流域構想」などが打ち出されました。吉野川・紀の川源流の奈良県川上村(次頁・川上宣言参照)で開かれた第5回全国源流サミット(2014年9月6日)では「真の流域連帯とは何か」がテーマになり、矢作川源流の長野県根羽村で開かれた第6回全国源流サミット(2015年9月4日)では「流域はひとつ、運命共同体」がテーマになりました。

上流域から、この間いくつかの核心的な発信が出されています。

○みんなの会は、木曾川流域集会の開催、『木曾川流域図』の活用、木曾川水源の里基金の運用、大豆作り・味噌造りなどを継続して取り組んでいます。

○名古屋生活クラブ、アイチョイスと共に、木曾広域連合の力添えをいただきながら、

上流域の生産物を新たに「発見」していきま



阿寺溪谷では今、紅葉が進行中! =10月12日大桑村
す。下流部の市民の皆さんへ上流の生産物を紹介しながら木曾へ、上流域へ出かけていくキッカケ、交流の広がりを作っていきます。

「水源の里が大事なのは当たり前だけれど、経済的に大事にされていない現状を変えていくには、下流の都市の住民と上流の町村の住民が、かけがえのない山、水の価値に目覚める事につくと思う。その様なことを伝える商品が欲しい」(2014年1月木曾川流域集会での発言・名古屋生活クラブ伊澤眞一)

○木曾川の水のつながりを切り口にしながら自治体、企業・事業所、流域の人びととの上下流交流・連携の取り組みを構想し、前に進めます。

(みんなの会事務局長・河崎 典夫)

木曾へ出かけましょう!

2014年9月27日の御嶽山の噴火から1年が経ちました。58人が亡くなられ、5人が行方不明で現在に至っています。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。被災された皆様にお見舞い申し上げます。

御嶽山の噴火によって、木曾全体に観光客が減少、木曾の町村は、大きな痛手を受けました。私たちの出来ることは何か…。噴火から1か月後の10月27日12時すぎからJR名古屋駅前“木曾、飛騨応援キャンペーン”が行われ、みんなの



木曾川の水が名古屋市千種区にある鍋屋上野浄水場へ流入。そして、私たちの生活水になっています。

会も参加しました。

11月29日に、“木曾に行きましょう～大きな被害を受けている王滝村、木曾町を応援しましょう～”と、バスツアーを行いました。参加したのは、大人が23人、子どもが4人の総勢27人でした。11時52分から全員で、亡くなられた方々のご冥福をお祈りする黙祷を行い、献花しました。

御嶽山の噴火による災害復興は、木曾の町村にとって道半ばです。皆さん、木曾へ出かけましょう。上下流交流を進めていきましょう。私たちは木曾川のおいしい水で、つながっています。

御嶽山への入山規制については、木曾町のホームページなどでチェックして下さい

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」上下流の交流・連携を

森は水の源、水は命の源、川は命のつながり

<源流からの発信・川上宣言>

吉野川・紀の川の源流にある奈良県川上村は、下流域の人びとに“かけがえのない水と森と山を育てていきたい”との願いと決断のもと、1996年に全国に向けて「川上宣言」を発信しました。

- 一、私たち川上は、かけがえのない水がつけられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 一、私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 一、私たち川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 一、私たち川上は、これから育つ子どもたちが、自然の生命の躍動に、すなおに感動できるような場をつくります。
- 一、私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。

「1トン1円基金」、もっと広がれ！

—愛知中部水道企業団と木曾広域連合の取り組み—

山根みちよ（みんなの会共同代表・日進市議）

私の住む日進市が位置する名古屋市東部は昭和40年代後半から人口が増加し、水の使用量が

急増しました。そこで、豊明・日進・東郷・長久手・三好の2市3町(当時)が協力して、1974年(昭和49年)に「愛知中部水道企業団設立準備委員会」を設置。そして、翌年4月1日に業務が開始されました。企業団の設立は、愛知用水(木曾川水系)から水を得ていた地域と西三河用水(矢作川水系)を利用していた地域を一つにまとめるという壮大な計画でもありました。異なる地域を一体化するのは大変難しい取り組みでしたが、そのおかげで県内初めて2水系を持つ、緊急時等にメリットの大きい水道事業となったのです。

そして、2000年(平成12年)には水源である木曾川上流地域の現状を認識し、水源地域を守り育てる取り組みとして「水源地環境整備促進事業助成金」制度を創設しました。水道料金に「使用料1トンあたり1円」を上乗せして基金を積み立て、目的の事業を行うとして徴収を開始しました。木曾川水系では初めての試みで、基金は上流域の木曾郡木曾広域連合に送られる仕組みです。

1年間に現在の4市1町の市民が、水道料金の「上乗せ分」として支払っている金額は約3,000万円になります。このうち約2,700万円を水源地域の森林保護・育成など水道水源環境保全事業に充てていき、残金を基金に積み立てています。

私たち市民は無意識のうちに水源の森の整備事業に加わっていることになり、豊富できれいな飲料水を持続的に飲むことができるわけです。

さらに、上流においても、木曾広域連合が森林整備を目的とした木曾森林保全基金を創設し、2004年(平成16年)3月から積み立てを始めています。こちらは年間約400万円になります。広域的な上下流域組織が共に手を携える事業は他に例がなく、この地域以外でもこうした取り組みが広がっていけばいいなと思います。

私は、この4月から愛知中部水道企業団議員に就任しました。上流地域の皆さまが豊潤でおいしい水を作るため日々緑化事業に力を注がれているのを目のあたりにし、恩恵を受ける者として、一層上下流交流に協力したいと思います。

「星野富弘 花の詩画展 in 木曾」を終えて

“人のつながり”で3700人が来場



2015年7月10日から20日まで、木曾文化公園文

化ホールで「星野富弘 花の詩画展 in 木曾」を開催しました。期間中は延べ3,704人ものお客様＝写真＝にご来場いただき、無事成功のうちに終わることが出来ました。振り返ってみると詩画展を開催するにあたっては数々の課題がありました。

① 木曾には専用の美術館がない

星野さんの詩画は水彩画のため会場をすべて遮光しなければなりません。以前に星野さんの詩画展を行った所に視察に行ったり、何回もスタッフ会議をして知恵を出し合ったりして、

手づくりの美術館を作りました。

② 集客

木曽町の人口は約1万2千人です。地元だけでは集客数が足りないため様々な所に宣伝をしました。限られた予算、人の中での宣伝でしたのでとても苦労しました。

③ ボランティアスタッフ

11日間の期間、会場での案内係や物販係など、たくさんのスタッフが必要でした。実行委員の知り合いや、星野さんのファンの方々、役場の皆さんにご協力をいただきました。

④ 予算

企業からの広告代や個人協賛金をいただきました。長野県の支援金制度も活用しました。しか

し、何と言ってもチケット収入が一番なので販売（告知）に力を入れました。

「本当に出来るかな？」から始まった詩画展でしたが、思い起こせば課題が多かったからこそ充実感も多かったように思います。改めて感じたことはポスター・チラシ等を見てきてくださった方もいましたが、一番多かったのは「人から聞いた」という声でした。人のつながりによって大成功になった事に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、みんなの会からも広告協賛、そしてたくさんの個人協賛もいただきました。また、多数の方々にご来場いただいたことも併せてこの場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。（小池靴店・唐沢 尚之）

木祖村アンテナショップ～情報発信・経済活動・交流の拠点～

木祖村名古屋出張所・山登由紀子

小さな村が都会にアンテナショップを常設している珍しい例が、名古屋市昭和区桜山町にある「木祖村アンテナショップ 源気屋（げんきや）桜山店」です。商店街とのコラボレーションで始まった事業ですが、今では木祖村の直営店舗として元気に営業中です。

春の山菜から始まり、夏はトウモロコシやトマトなどの高原野菜が、秋～冬はお漬物に酒粕…その他、手作りクッキーや信州名物のそば、健康食品など木祖村の味覚が満載のショップです。漆器製品や木工製品、お六櫛などの伝統工芸品もあります。

木曽川の最上流・源流の里として上下流交流に力を注ぐ木祖村では、「情報発信の場」、「経済活動の場」、「交流拠点の場」としてアンテナショップを重要視しています。今後は、下流域の交流団体・市町村の商品なども販売を



予定しており、より魅力的で、交流活動の意義を感じられるような店舗にしたいと考えています。ぜひ一度お立ち寄りください。

～ショップ情報～

☆住所：名古屋市昭和区桜山町6-104-37 電話：052-680-7370

☆アクセス：名古屋市営地下鉄桜山駅 7番出口 徒歩30秒

出会いと交流の今池まつり～木曾のトウモロコシなど販売～

9月20、21日、名古屋市千種区の今池界限にて「今池まつり」（主催・今池商店街連合会）が行われました。

例年のように木曾広域連合地域振興課、木祖村商工観光課の方々と「みんなの会」の共同で2日間取り組みを行いました＝写真。木曾から持ち込まれたトマト、ジャガイモなどの野菜をはじめ採れたばかりのマツタケやコムソウダケが店頭並び、また大桑村の田澤養鱒場からは鱒の甘露煮なども販売されました。

そして、木曾町日義で採れたトウモロコシと木祖村でみんなの会が取り組んでいる大豆づくりの畑から化学合成農薬不使用の枝豆が販売され、特に枝豆は2日分の量が半日で売れてしまいました。

私たちのブースを訪れ、野菜の話から水の話、



川でつながる上流・下流の交流の話、お互い顔の見える関係の大切さの話など、熱心に耳を傾ける若いお母さんや「木曾川流域図」に関心を寄せる年配の方々との出会いがありました。

（みんなの会事務局・近藤 進）

2015年も、いよいよ大豆の収穫が間近となりました！



地道に草取りした畑。左が大豆、右はトウモロコシ

今年で5度目となる大豆作り。木曾川源流の里・長野県木祖村のこだまの森近くに約180坪の畑を借りています。5月に種を蒔き、6月中旬、苗の定植・トウモロコシ・かぼちゃ・トウガラシ・レタスなどの定植。

今年の大豆の苗の定植は少し時期が遅れてしまい、ヒョロヒョロした苗を何とか植えました。大分

風で折れてしまったものがありましたが、木祖村の笹川さんが後の繕いをしてくださって、生き返った株がたくさんありました。

その後、除草剤を使わず地道な草取り作業、そしてまた草取り。8月初めには木曾駒高原にある小池糰店の味噌蔵で味噌の天地返し。その頃大豆には小さな紫色の花が咲いていました。また黒豆は真っ白な花でした。今年は一時、長雨に見舞われたものの、比較的天候に恵まれ大豆のサヤも大きく膨らんでいます。

10月24日（土）、25日（日）に収穫を行います。少雨決行です。日帰り参加も歓迎です。当日、朝、車に乗り合わせて木祖村の畑に向かいますので、事前に連絡してください。

「みんなの楽作隊」への参加も募集していますので、ぜひご参加ください。

***連絡先*近藤 進 携帯：090-4150-6156**

<書評>『地域に希望あり～まち・人・仕事を創る～』

「増田レポート」、農山村つぶしの「毒薬」

著者は、6年前、「第2回水源の里を守ろう 木曾川流域集会」の基調講演で、「地域の力～自然と人、人と人の関係性の豊かなまちづくり」の話をされた大江正章さんです。それまでに歩き見聞きし、語り合ってきた地域の人びとの生き方をいきいきと展開してくれた具体的な事例は、私たちに地域の力の可能性を強く訴えるものでした。

昨年2014年に発表された一連の提言「増田レポート」は、「地方消滅」という表現で、多くの市町村や住民に衝撃を与え、特に「消滅する市町村」として523市町村を名指ししたものでした。「消滅する市町村」のトップにあげられた群馬県南牧村は移住者が村に定着してきて住民の協議会も活動し、著者は「南牧村には希望がある」とみています。そして、若年女性人口の半減即ち市町村の消滅というきわめて乱暴な推計による「地方消滅」の提言は、農山村つぶしの「毒薬」と言うべきだろうと、まず鋭く反論しています。

「消滅可能性町村」にも、住民主体の地域づくり活動があり、故郷や移住地に誇りを持ち、小さな仕事を組み合わせ人を育てる。農山村に限らず地域に希望ありの本書の各地ルポルタージュは必読の書。尚、著者は「地方消滅論」について、小田切徳美明治大学教授の『農山村は消滅しない』（岩波新書）を紹介しています。（水原 博子）

<編集後記>

今年は、春も夏も大変忙しい日々でした。そのこともあって総会の開催やニュースの発行が、遅れてしまいました。申し訳なく思っています。

敗戦後70年の今年、いろいろな人に「70年で一番楽しく、印象に残っている年代はいつごろ？」と聞いています。80代の人たちは、3人とも1945年から50年ごろまで、との返事。当時の校長が「今は生徒の黄金時代だ」と言ったそうです。生徒たちが、学校を仕切っているのです。団塊世代の私は1970年前後の数年か。しかし苦しい日々でもありました。あなたは、いつごろですか？

多くの犠牲者を出した中から戦後はスタート。その核心として9条があると思います。今、そして明日に向かう時、“平和こそ最大の福祉”は私たちに響きます。（河）

*～お願い～本年度（2015年6月から16年5月）会費の納入をお願いします。下記の郵便振込口座をお願いします。

☆☆☆☆第5期木曾川流域

水源の里基金へ募金の

ご協力をお願いします☆☆☆

<郵便振込口座>

口座番号； 00810-1-158556

加入者名； みる・みるの会

（水源の里基金と記してください）

水源の里を守ろう

木曾川流域みる・みるの会

☆共同代表☆

山根みちよ（日進市議）、

伊澤眞一（名古屋生活クラブ）

☆顧問：斎藤まこと（名古屋市議）☆

☆連絡先☆

〒464-0075

名古屋市千種区内山3-7-11 斎藤事務所気付

TEL 052(745)1001 FAX 052(741)2588

HP: <http://www.kisogawamin1.net/>

e-mail: suigenosato@gmail.com